

食糧用大麦「はるか二条」の特性を活かした 播種期と施肥法

豊前分場・農産部

1 背景、目的

福岡県の麦の収量は、播種期の遅れや生育中の多雨、暖冬により低くなっています。このため、福岡県では早生で多収な食糧用大麦「はるか二条」を準奨励品種に採用しました。そこで、「はるか二条」の早生で倒れにくく収量が多い特性を活かし、播種期幅の拡大および施肥法を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「はるか二条」を11月6半旬～12月4半旬に播種すると、整粒歩合が高く、収量は安定して高くなります。また、検査等級も年次に関わらず良好です（表1）。
- 2) 「はるか二条」の施肥は、10a当たり窒素成分で基肥に5kg、1回目追肥（1月下旬～2月上旬）に4kg、2回目追肥（2月下旬～3月上旬）に2kgとすると、倒れにくく、収量が高位で安定します（図1）。
- 3) 12月3～4半旬に播種する場合には、出芽本数を約200本/m²とすると約150本/m²と比べて多収となります（データ略）。
- 4) 排水不良田等で莖数が少なく、葉色が薄い等生育が不良な場合に、2回目追肥（2月下旬～3月上旬）を10a当たり窒素施肥量で2kg増肥すると収量が向上します（図2）。

3 主要なデータ・画像など

表1 播種期が「はるか二条」の生育、収量、品質に及ぼす影響（豊前分場）

播種年	播種期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	千粒重 (g)	収量 (kg/a)	整粒 歩合 (%)	検査 等級
平成 27年	11月12日	5月2日	80c	861a	無	45.0b	42.5b	76.4b	2等
	11月30日	5月15日	93a	765ab	中	46.8a	51.5a	92.6a	1等
	12月14日	5月19日	87b	687b	微～少	47.3a	51.6a	88.7a	1等
平成 28年	11月17日	5月10日	86b	476a	無	49.5a	37.6a	92.4a	1等
	11月30日	5月15日	90a	579a	無	47.4a	48.0b	92.0a	1等
	12月19日	5月21日	83c	572a	無	49.4a	46.4b	92.7a	1等

- 注) 1. 10a当たり施肥窒素量は、27年度が5+4+4(基肥+追肥1+追肥2、以下同じ)、28年度が5+4+2kg。
 2. 出芽本数は全区150本/m²程度で、千粒重、収量は水分12.5%換算。
 3. 異英字間には、各年に5%水準で有意な差あり。

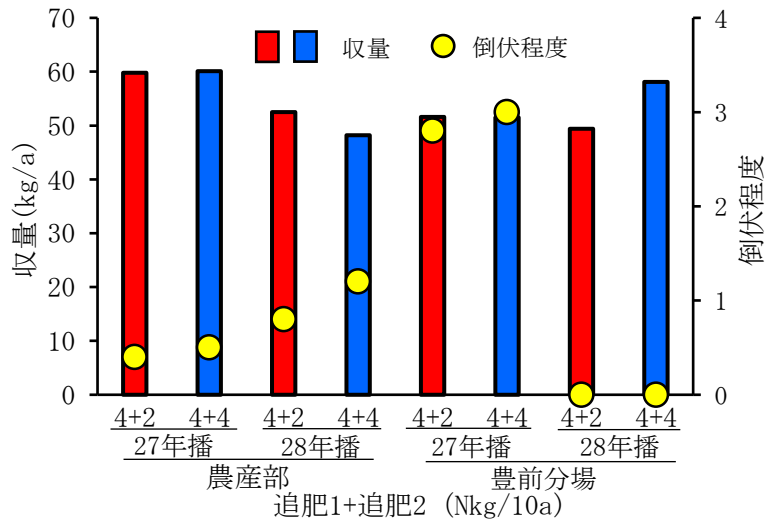


図1 追肥量と収量および倒伏程度

注) 播種期は11月6半旬～12月1半旬。

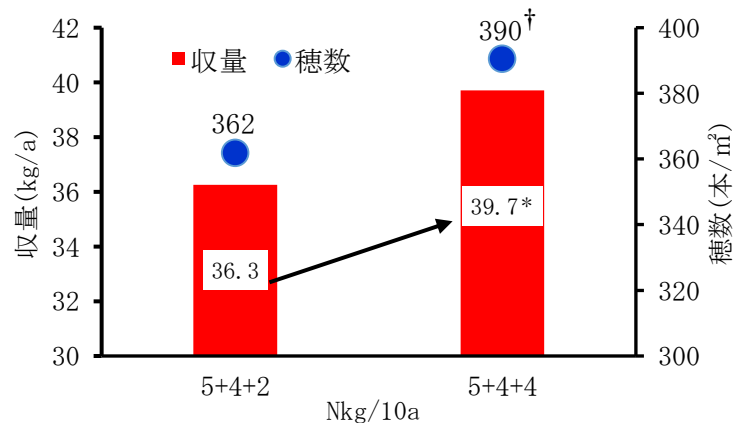


図2 排水不良田における増肥の効果（豊前分場）

- 注) 1. 平成27～28年播の2ヵ年の平均値。
 2. †、*はそれぞれ10%、5%水準で有意な差あり。